

今、いちばん気になる統計は？

「保活」の実態に関する調査

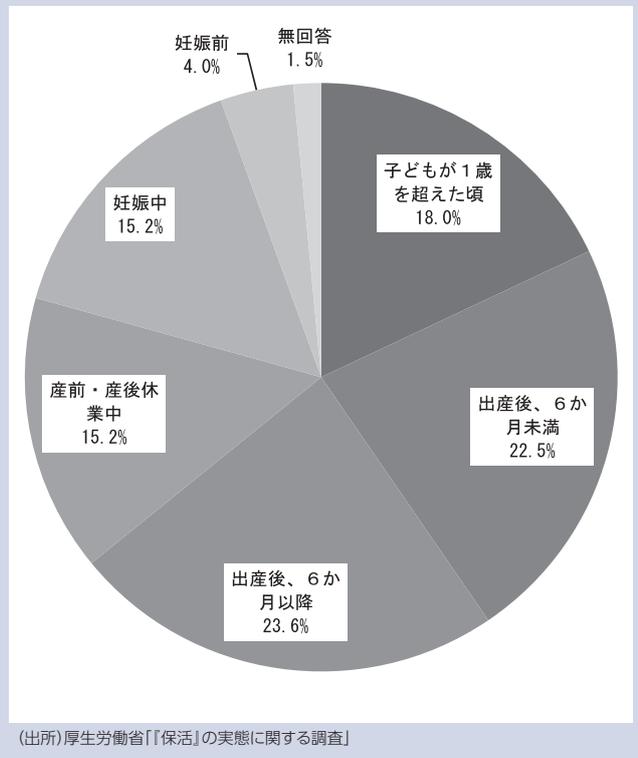
「保活(ほかつ)」は、子どもを保育所に入れるための一連の活動を指し、「就活」や「婚活」になぞらえた造語だ。私自身の家庭も現在その活動の真っ只中で、保育所の見学予約すら数ヶ月待たなくてはならない現状を前に、待機児童問題の深刻さを痛感している。

2016年5月に厚生労働省が公表したアンケート調査によれば、「保活」を経験した人の多くが、まだ子どもが小さいうちから「保活」を行っている。活動の内容は「市役所への訪問」や「情報収集」であるが、まだ小さな子どもを連れて何度も外出するのは容易なことではない。真夏や真冬であれば尚更だ。中には子どもが生まれる前から「保活」を行っている親も相当数いるようだ。

保育所に入るためにそこまでやらなければならないのは、やはり異様だと思う。保育士不足や低待遇、保育所不足などは十分な財源を確保できていないことに端を発している。少子化問題は、日本経済の根幹に関わる最重要課題だ。国や地方自治体は大胆かつ迅速に、解決を図ることが求められる。

(経済調査部 星野 卓也)

資料 保活を開始した時期 (n=3,781)



編集後記

4年に一度のオリンピック・パラリンピックが終わった。始まるまではいろいろ言われることも多いが、やはり始まってみれば日本選手のパフォーマンス、メダル獲得に感動し、様々な競技のトップアスリート達の技に興奮し、思わず画面に向って声を出してしまった方も多いのでは。あらためてスポーツの祭典の意義を感じさせてくれた大会だった。前回ロンドン大会から始まったメダリストパレードも今回はパラリンピックのメダリストと一緒に10月7日に予定されている。前は銀座中央通りで行われ50万人(主催者発表)が集まりメダリスト達に声援を送った。弊社のある有楽町地区でも朝から銀座への人の流れが続いていたことを思い出す。

いよいよ次は東京だ。4年は長いようで短い。ロンドン大会からリオ大会までの時間の流れ方をみればあつと言う間にやってくるはずだ。最近のオリンピックとその準備過程は、まさに開催国の国のシステムそのものが問われているように思う。一度経験があるといっても50年以上前の話であり、過去のやり方は通用しないだろう。巷間まだすっきりしない話もあるようだが、今の日本の姿、世界の動きを正しく認識し準備を進め、大会を成功させ、さすが日本と言われるようにしたいものだ。

しかし…オリンピック・パラリンピックは多くのことを教えてくれる特別な大会で国にとっても大切なイベントであることは間違いないが、それにかこつけて宿題を先送りしようという空気も若干感じるのは気のせいだろうか。(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。